



【先週のMESSAGEより】

ヨセフの生涯 (2) 創世記39-40章

●ヨセフが獄中で受けた訓練は次のとおりです。

- 1) 誰が見ていなくても正しいことをする訓練 (ポティファルの全財産の管理人として、ポティファルの妻の誘惑を退けて)
- 2) 正しいことを選んだために受ける苦しみに耐える訓練 (ポティファルの妻の誘惑を拒否した結果、かえって恨みを買って投獄されて)
- 3) 変化しないように見える逆境の中で腐らず、失望せずに耐える訓練 (牢獄で預言の働きをしても出してもらえなかったことを通して)



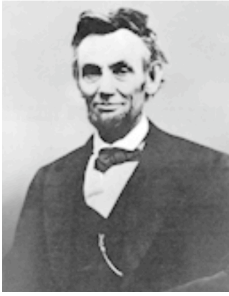
【今週の暗唱聖句】 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益とさせていただきますことを、私たちは知っています。ローマ8章28節

苦しみや悲しみの最中を通して人に向かって「神が全てのことを働かせて…」と励ましてみて、結果が思わしくなかった人も多いことでしょう。ある意味で当然ですね。自分がその苦しんでいる立場であったなら「あなたに分かってたまるものですか」と言いたくなるからです。ではこの御言葉がいちばん力を発揮するのはどういう時でしょうか。それは、あなた自身の心に刻まれている時です。これを常に自分自身に語る「独り言」としましょう。「人々」の代わりに自分の名を入れて覚えるのも良いアイデアです。



【今週の英語／リンカーンの FAST】

●1863年、南北戦争の最中、リンカーン大統領は二つの宣言をします。一つは3月30日、National Fast Day (国家断食日) 宣言、そして10月3日には Thanksgiving Proclamation (感謝祭宣言) です。米国で感謝祭と言えば、七面鳥を始めとする大ご馳走「Feast」をする日ですが、一文字抜きますと正反対の Fast 断食という意味になります。リンカーンは10月に感謝をささげる前に国民全体に悔い改めの断食を勧めていますが、現代を生きる私たちが是非とも耳を傾けるべき内容がその中に多くあります。聞いて見ましょう。



Proclamation Appointing a National Fast Day March 30, 1863 国家断食日宣言よりの抜粋

.... it is the duty of nations as well as of men, to own their dependence upon the overruling power of God, to confess their sins and transgressions, in humble sorrow, yet with assured hope that genuine repentance will lead to mercy and pardon; and to recognize the sublime truth, announced in the Holy Scriptures and proven by all history, that those nations only are blessed whose God is the Lord.

国家および人の義務とは何か。それは全領域における神の支配権への自らの依存を認め、真実な悔い改めのうちには恵みと赦しがあるとの確信のもと、謙遜な悲しみをもって罪と違反とを告白することであり、聖書により宣言され、全歴史を通し証明されている崇高な真理、つまり「主」を神とする国家のみが祝福されうるということを認識することである

.... we know that, by His divine law, nations like individuals are subjected to punishments and chastisements in this world, may we not justly fear that the awful calamity of civil war, which now desolates the land, may be but a punishment, inflicted upon us, for our presumptuous sins, to the needful end of our national reformation as a whole People? We have been the recipients of the choicest bounties of Heaven. We have been preserved, these many years, in peace and prosperity. We have grown in numbers, wealth and power, as no other nation has ever grown.

この世におき、個人はもとより、国家も、神の律法により刑罰と懲罰の対象となることを我々は知っている。国土の荒廃をもたらす内戦の悲惨な惨禍は、我々の傲慢の罪のゆえ、また国家全体が改革されるために与えられている刑罰なのだ、ということをお我々は恐れをもって受け入れなければならない。我々は天下における最上の賜物を受けた国民なのだ。何年もの間、平和と繁栄のうちに保たれて来たのだ。どの国家よりも数にも財にも力においても大きく成長してきたのだ。

But we have forgotten God. We have forgotten the gracious hand which preserved us in peace, and multiplied and enriched and strengthened us; and we have vainly imagined, in the deceitfulness of our hearts, that all these blessings were produced by some superior wisdom and virtue of our own. Intoxicated with unbroken success, we have become too self-sufficient to feel the necessity of redeeming and preserving grace, too proud to pray to the God that made us!

It behooves us then, to humble ourselves before the offended Power, to confess our national sins, and to pray for clemency and forgiveness.

しかし、我々は神を忘れたのである。平和を保たせ、増え広がらせ、豊かにし、力を得させてくださったその恵み豊かな御手を忘れたのだ。自らの欺きゆえ、我々は空しくも思った。これらの恵みは自らの卓越した知識と徳とにより実現したのだと。途切れることのない成功に酔い、あまりに自己充足的になり、購いと保持との恵みの必要を感じることができないほどになった。あまりに高慢になり、我々の造り主なる神に祈る必要を忘れてしまった。ゆえに、我々がそこなったところの御力の前に我々はへりくだり、国家の罪を告白し、寛大な処置と赦しとを祈り求める義務があるのだ。...

宣言全文→<http://showcase.netins.net/web/creative/lincoln/speeches/fast.htm>

◆いかがでしたか。自分の告白として行けたら感謝です。